

平成 22 年「ガラス産業連合会新年会」報告

(社)ニューガラスフォーラム事務局

Report on the New Year Party of the Glass Industry Conference



(左から、硝子繊維、電気硝子、硝子製品、板硝子、ガラスびん、NGF の会長)

東京の最高気温が 18℃ まで跳ね上り、大寒(だいかん)とはいえポカポカ陽気に恵まれた 1 月 21 日(木)午後 4 時から 6 時まで、もはやガラス業界の風物詩として定着した観のある、「ガラス産業連合会 (GIC) 新年会」が開かれました。以前は各団体毎にバラバラに行っていた新年会を、平成 14 年に初めて GIC として統一的に開催してから 9 回目の新年会です。そもそも、GIC 自体が設立されたのが平成 12 年ですから設立後、間もなく、ガラス業界に共通する活動を目指す GIC の目玉事業の一つとして始められました。今回も、産・学・官・プレス・団体関係者約 335 名が参加した盛況な集いでした。参加団体は、板硝子協会、硝子繊維協会、(社)日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協



(皿澤修一ガラス産業連合会会長)

会、電気硝子工業会、(社)ニューガラスフォーラムの 6 団体です。

牧有二・板硝子協会専務理事の司会で、皿澤修一 GIC 会長 (板硝子協会会長・セントラル硝子社長)の挨拶の後、来賓の平工奉文(ひらく・ともふみ) 経済産業省製造産業局長の挨拶がありました。その後、フランソワ・ザビエ リエナル硝子繊維協会会長の乾杯の音頭で懇親会に移り、牧島亮男・北陸先端科学技術大学院大学特別学長顧問の中締めでお開きとなりました。皿澤 GIC 会長の挨拶概要は以下のとおりでした。

「本年は平成 12 年にガラス産業団体の統一横断組織として、当連合会の前身となります」ガ

ラス産業協議会」が設立され10周年の節目となる年にも当たります。この10年間には現在の会員6団体が一致団結し、プロセス技術、材料技術、環境技術などの技術部会、環境広報部会などの部会活動を通じて「ガラスの夢と未来」を求めながら以下のように多くの業績を残してきました。

- ①2004年に京都で開催された「第19回国際ガラス会議（ICG）」への支援協力。
- ②CO₂削減、リサイクルなどの環境対応として「欧州先進事例調査実施と報告書の発刊」、「環境白書-ガラスと環境」の作成、CO₂削減の自主行動計画の策定とフォロー。
- ③化学物質安全として、RoHS（ローズ）、REACH（リーチ）への対応や有害微量成分分析のJ I S化への対応。
- ④現在ナショナルプロジェクトとなっている「三次元光デバイス及び次世代光波制御」、「革新的ガラス溶融プロセス技術」の開発及び本年春に刊行を予定している「ガラス製造プラント百科」の刊行。
- ⑤毎年開催している「ガラス技術シンポジウム」を通じての産学交流。

また、本日は、設立時点で、またその後の運営においてご貢献をいただきました大先輩の旭硝子相談役瀬谷博道様、セントラル硝子特別顧問中村禎良様、元日本ガラスびん協会

会長小山達治様にもご出席を頂いており、この場をお借りしてご功績に敬意を表するところです。

さて、昨年夏、私がガラス産業連合会会長を拝命しました時期は、その前年の世界同時不況の直後でありガラス業界も大変厳しい状況に置かれておりました。その後、最悪期は脱しつつはあるものの、相変わらずの厳しい雇用情勢やデフレの進行など予断を許さぬ環境であることは否定できません。そうした中で、昨年は政権も交代し政府も様々な経済対策を展開し需要創造に取り組もうとしております。もっともホットな政策として打ち出された「住宅版エコポイント制度の創設」も低迷する国内住宅産業の現状下、併せて環境問題に取り組む一つの大きな政策として当連合会でも評価し、板硝子協会、硝子繊維協会を中心に一般広報活動に注力し普及拡大に努めてまいります。本年もガラス産業連合会では、6団体共通の課題である「環境問題」、成長戦略としての「技術開発」と同時にガラスをもっと消費者の皆様にお馴染みいただくための「広報活動」に引き続き努めてまいります」。

ところで、硝子繊維協会会長で、(株)マグ社長であるリエナール氏は、乾杯に際して次の三つ



(平工奉文 製造産業局長)



(リエナール硝子繊維協会会長)

の信頼を日本語で語った後に、乾杯に移りました。

1つ目は、経済危機にあっても、企業の可能性に対する信頼

2つ目は、誰もが願っている、景気回復という未来に向けて、国民が持つ信頼

3つ目は、地球環境の未来のための政策に対

する、政府への信頼

リエナール社長の流暢な発音に会場は一瞬引き込まれた感がしましたが、実は、彼は大阪大学に語学留学をした経歴の持ち主なのです。

こんな場面にも、GICの国際化が反映していました。